

潰瘍性大腸炎の一例

医療法人社団宏洋会 清水内科外科医院

清水 雅行

症例

患者：20歳 男性 浪人生

主訴：腹痛・下痢・血便・時に下血

現病歴：進学校に入学し、高2から医学部を目指して受験勉強をしていたが、現在2浪中。親からは3浪はダメと言われ今回で決めるように言われている。文化部に所属し運動は体育以外にしていなかった。高3のころから腹痛と下痢が起こるようになったが、自然に軽快していた。夏季講習中、冷房が効き過ぎた教室で長時間授業を受けていたが、腹痛や下痢が頻回となった。夏季終了後の模擬試験の成績が思わしくなく、志望校を医学部以外も検討するよう、予備校や両親から勧められた。その頃より血便が出現し、時に下血になったため、消化器内科受診。検査の結果、潰瘍性大腸炎と診断された。ステロイド剤・止血剤を処方され、下血はなくなったが血便は持続していた。親戚の勧めで当院受診。

四診

望診：顔面蒼白、痩せ気味

問診：腹痛、朝に強い。下痢や泥状便3～8回/日。頻回に血便がある。腹脹軽度あり、ガスも多い。お腹を温めると心地よい。不安・緊張がある。寝つきが悪い。浮動性めまい・立ちくらみ・口苦・口乾あり。

聞診：腹鳴あり

脈診：弦細 やや数

舌診：舌辺紅 苔薄白 舌下静脈怒張なし

西洋医学的診断

病名：潰瘍性大腸炎・軽度貧血

治療：ペンタサ・プレドニン内服

出血が多いときアドナ・トランサミン追加。
その後ペンタサが出荷調整となったため、
プレドニン内服のみ。